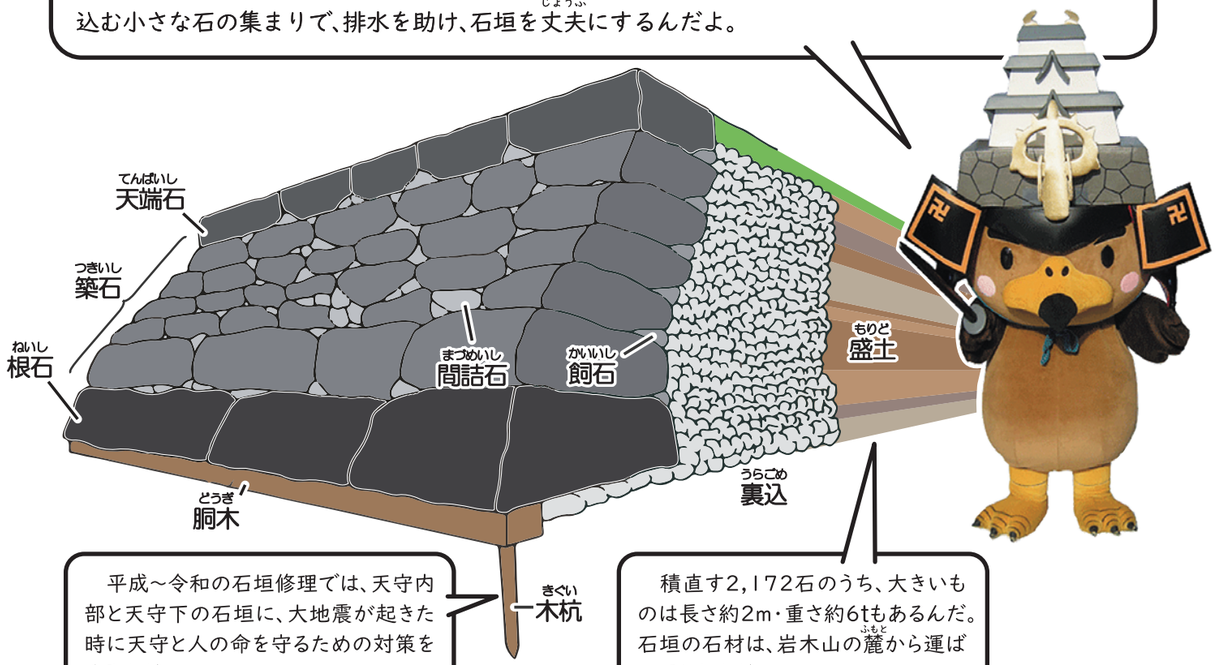
石垣はどのように作られているのでしょうか

江戸時代の人が石垣を築く時は、木杭や胴木で基礎を作ってから石を積んだんだよ。築石の中で一番下になる石を根石、一番上を天端石というんだ。築石と築石のすきまにつめるのが間詰石、築石をすえるときに横や後ろにはさんで石の角度を調整する石を飼石というんだよ。裏込は、盛土と築石の間に詰め込む小さな石の集まりで、排水を助け、石垣を丈夫にするんだよ。



平成～令和の石垣修理では、天守内部と天守下の石垣に、大地震が起きた時に天守と人の命を守るための対策をするんだよ。

積直す2,172石のうち、大きいものは長さ約2m・重さ約6tもあるんだ。石垣の石材は、岩木山の麓から運ばれてきたんだよ。

石垣修理のスケジュール

石垣を解体した後、石垣の積直しを行い、その後に天守を元の位置に戻します。

［平成２７年度］◆８月１６日～１０月２４日　天守曳家（写真⑧）
［平成２８年度］◆天守を移動先で公開　◆石垣解体工事着手
石垣を解体する前に、石に番号付けを行い記録を採取
［平成２９年度］◆４月９日　石垣解体始め式
第１石目の石を解体して石垣解体工事が本格化
［平成３０年度］総数2,172個の石を解体
［令和　元　年度］積直し方法の検討・設計
［令和2～6年度］石垣積直し工事（写真⑨）
［令和　7　年度］天守を元の位置に移動


⑧


⑨

ひろさき応援寄附金（ふるさと納税）
【特別コース】弘前城天守がお引越し！世紀の石垣大修理～石垣普請応援コース～
詳しくはこちら→http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/hitokuchijyosyu.html

弘前市　ふるさと納税　検索

【発行】弘前市都市整備部公園緑地課弘前城整備活用推進室　〒036-8356　青森県弘前市大字下白銀町１　TEL：0172－33－8739

弘前城本丸石垣修理

弘前城のふくらんだ石垣を直すため、約100年ぶりに天守を曳家のうえ、石垣を解体して積直し工事を進めています。

たか丸くん
（石垣修理バージョン）





平成27年に天守を移動させた後（写真①②）、平成28年から石垣解体の準備を始めて、平成29・30年で解体したんだ。
石垣が、なぜふくらんだのか原因を確認するため、石を一つずつ調査しながら取り外していったんだよ。外した石は総数2，172個もあるんだ。石垣の後ろの土も調査しながら掘り下げていったんだ。石垣を積直す時には、石の位置を調整しながら積直していくんだ。壊れた石はくっつけたり新しい石と交換したりして、元の位置に積直すんだよ。

石垣の解体中には、新たな発見があったんだよ。天守の約100m北側では、本丸側に延びる埋没石垣（写真③）のほか、排水跡（写真④）や井戸跡（写真⑤）が見つかっているんだ。排水跡は、約300年前の弘前藩4代藩主・津軽信政の時代につくられたもので、埋没石垣と井戸跡はそれよりも古く、約350～400年前につくられたものなんだよ。
これらは弘前城跡にとってとても重要な発見なので、そのまま保存することにしたんだよ。







天守近くの石垣は、明治時代に2度も崩れているんだ（写真⑥）。その後大正4年（1915）に石垣を積直した際には、天守下の石垣を中心にコンクリートを使って修理したんだよ（写真⑦）。



